

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 8 月 6 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：8 月 10 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 3 回放送 岩手県立千厩病院 吉田 徹 院長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日、スタジオにお越しいただきました、岩手県立千厩病院の吉田徹院長にお越しいただきました。吉田先生、よろしくお願ひいたします。

**吉田** よろしくお願ひします。

**塩竈** 吉田先生は、専門はどちらのお医者さんになる訳でしょうか？

**吉田** 私は、専門は消化器外科ですが、診療所の勤務もありましたので、広く総合診療一般も診ております。

**塩竈** そうですか。千厩地域の皆さんにとってみると、この県立千厩病院っていうのは、本当に拠点になる病院ということで、多くの皆さんが足を運んだことがあるかもしれません。今日はですね、この吉田先生に千厩病院についていろいろお話を伺っていきたいんですが、まずは、常勤されているお医者さんの数、それから診療体制について聞かせてください。

**吉田** 現在 9 名です。その内訳としては、総合診療科が 3 名、消化器内科が 1 名、外科が 3 名、整形外科が 1 名、泌尿器科が 1 名、合計 9 名ということになります。

**塩竈** 現在では救急医療の方も受け入れているというのが、この県立千厩病院になるんですけども、先生、その救急医療の実態について教えてください。

**吉田** 10 年位前は、今、常勤医師が現在 9 名と話ししましたけれども、18 名程今の倍おりました、その当時は、救急車の台数が、年間 700 台程度だったんですが、3 年前に 1,000 台を越えまして、それから 3 年間、去年は 987 台でしたが、半分の常勤医師でこの 1.5 倍になった救急の外来の患者さんを診ているというような厳しい状況であります。

**塩竈** 1 年で 1,000 台近くの救急車がやってくる。まあ、日によってももちろんその数っていうのはいろいろ違うんでしょうけど、それでも多くの救急患者の皆さんがやってくる。その中を以前は、18 名いたところ、半分の人数で治療にあたっているということなんですね。年齢層でいうと、どういった皆さんが、救急搬送される場合っていうのが多いんでしょうか。

**吉田** やっぱり 70 代、80 代が多いですね。高齢者の方が多いです。結局、独居の高齢者が増えていきますので、かなり高熱が出ただけでも、おひとりで動けなくて、救急車っていうような状況もなかにはあります。

**塩竈** そうなんですね。こちらの千厩病院では入院される方というのも、もちろんいらっしゃると思うんですけども、だいたいどのくらいの入院率なんでしょうか。

**吉田** 救急車で来院された方の大体 4 割が入院です。

**塩竈** 県立千厩病院ですけども、こちらのほうでの治療というのに、まずはあたるわけです

けれども、この他にもだいぶ重い症状がある方ってのももちろんいらっしゃる訳ですよ。

**吉田** 例えば、脳卒中、脳梗塞とか、心筋梗塞とか多発の外傷とか、すぐに専門医の治療あるいは規模の大きな手術を必要とする場合には、近隣の磐井病院とか盛岡の高次救急センターとか、あるいは仙台の方の心臓の処置をしていただけのような病院へ搬送、あるいは日中ですとドクターヘリを使って搬送という場合もあります。

**塩竈** そういうのもあるんですね。搬送する場合ですけれども、救急車を利用する場合はですね、救急隊員の皆さんが、いろんなその判断っていうのもあるかとは思いますが、お医者さんとそういった連携を上手くとって、どこの病院に運んでいくっていうなかで、千厩病院もあればそれ以外の病院を選ばれるってこともあるんですね。

**吉田** まず第一報は、この東磐井の医療圏では千厩の方に入ってますね、病状をお聞きして、まあ、基本的にお断りするってことはないんですが、先ほどお話ししたような脳血管系・心臓系で、治療の開始までの時間が生死に関わるような状況が考えられた場合には、そちらの方に直接行っていただくってこともあります。

**塩竈** こういった患者さんの体力であったりとか、病状に合わせてその効率的に医療っていうのをすぐ受けてもらえるような、そういった体制っていうのが、今は取られているということですね。

**吉田** ええ、そうですね。

**塩竈** これまでもいろんな病院の先生にお越しいただいてお話しを伺っているんですけども、最近では、病院によって役割分担といいますか、こういうものっていうのが、明らかになってきていますよね。

**吉田** 今よく言われているのは、昔は、病院完

結型の医療っていうのが目指されてたわけですが、10年前の千厩病院がまさにそれで、ほぼ10数年前は千厩病院でも、8割方、9割方の病気が完結できたわけですが、医療状況も変わってきてますので、地域で完結するという形に変わってきています。地域の病院で、それぞれ機能分担して、役割分担をして医療を完結するっていう考え方です。

**塩竈** そういった地域完結型のなかで、千厩病院が置かれている役割とは、こういったものでしょうか。

**吉田** 今言ったような、救急、ある程度のレベルまでの救急は、当然、東磐井の最期の砦として機能していかなければいけないと思っておりますが、昨年から加わった機能のひとつが、リハビリ部門ですね。脳卒中とか骨折の後の在宅に戻るための早く自宅に戻るためのリハビリを行う回復リハビリの機能っていうのが加わっております。

**塩竈** その医療をそれぞれ役割分担していくとなると、その症状の重さであったりとか、そのスピード感とかいろんなものだけに、こうちょっと目が行きがちですけども、そうですね、その治療が終わった後のリハビリという大事で、その地域の中では千厩病院が新たにその役割としてやられている。

**吉田** そうですね。

**塩竈** リハビリテーションの分野で千厩病院が取り組んでいるものっていうのは、どういうものがあるんでしょうか。

**吉田** 脳血管疾患、脳卒中ですね、脳梗塞とか脳挫傷とか、いわゆる脳の損傷を受けたような疾患に加えて整形的な骨折が、大体8割以上を占めていますね。

**塩竈** 病院の中にはリハビリ棟というのが今つくられているそうですね。

**吉田** 病院の5階が回復リハビリ病棟となっていて、そのリハビリ専門の病棟となっていますので、リハビリを目的とした患者さんだけが入って、スタッフもそれ専門のスタッフが勤務しているというような病棟になります。

**塩竈** そうなんですか。こちらはベッドの数というのはどのくらいになるのでしょうか。

**吉田** 40床です。

**塩竈** 現在も、入院患者さんの皆さんっていうのは、こちらの方をこう利用されている。

**吉田** そうです。

**塩竈** 大体どのくらいの人数でこう推移するものなんでしょうか。

**吉田** 現在、大体25人から30人くらいの入院患者さんで推移しております。大体7割前後の利用率です。

**塩竈** いろいろなその治療を終えた後に、この病棟にまた移っていただいて、その回復に向けてっていうところを、ここでいろいろリハビリっていうのを加えていくっていうところですね。

**吉田** そういうことになります。

**塩竈** これまでは千厩病院には、昨年7月から始まった回復リハビリ病棟ということで、以前はどちらのほうで、これは対応されていたものなんでしょうか。

**吉田** 大東病院にありまして、震災で大東病院の入院機能がストップしてしまいましたので、それに伴って千厩病院のほうに移管されたということになります。

**塩竈** そうなんですね。まあ、今後またリハビリのスタッフの方の数っていうのも、こういった専門的にリハビリを行う病棟ができ上がると充

実していくのかなと思うんですけども、伺いましたら、1年365日毎日そのリハビリっていうのをこう経験というか治療にあたることができるというふうになっている訳ですね

**吉田** そうです。リハビリは毎日継続することによって、その機能回復が効率的に行われますので、土曜日曜だ、お盆だ、正月だっていうので休めば、また逆戻りしてしまいますので、365日体制にやっと今年度から始まりました。

**塩竈** その地域それぞれに病院が持たれている役割というのがありますが、その千厩病院、地域の中では特にこの回復リハビリというところ、こういったところに力が入っている、そういった病院ということが伝わってきました。

**塩竈** さて、地域の皆さんが多く足を運ぶ、その拠点になる病院のひとつなわけですけども、子どもさんに向けての小児科外来の情報っていうのをですね、この「FMあすも」からもよくお伝えすることがあります。現在は、毎週水曜日の午後にこの小児科外来というのを受け付けているそうですね。

**吉田** はい、そうです。一昨年度までは磐井病院の小児科の先生が週1回いらしていただいていたんですが、昨年からは磐井の小児科のスタッフの数もかなり厳しいということでお休みになってたんですが、今年度からは毎週外来が再開しております。

**塩竈** そうですか、はい。じゃあこちらのほうも、取りあえずちょっと確認していただいて利用する場合は、こちらの日ですね、毎週水曜日の午後に小児科外来を行っているということです。それから先生、広報I-Style8月1日号を見ておりましたら、千厩病院で漢方外来というのが始まったという、そういった情報をお伺いしたんですけども。

**吉田** これは今月8月の19日から開設が始まるんですが、予定としては毎月第3火曜日の午前中ということで考えております。第1回が

8月19日火曜日からということになります。

**塩竈** それから先が毎月第3火曜の午前中に診療があるということですね。

**吉田** そうです。

**塩竈** こちらは漢方外来の専門の先生がいらっしゃる。

**吉田** 今、県立高田病院に勤務しております溝部先生という方なのですが、溝部先生は、久留米でお仕事されていたんですが、震災後、震災で被災された県のお手伝いをしたいということでいらしていただいて、今は高田病院の方で循環器内科漢方関係を診てくれているんですが、東京女子医大の方で漢方を勉強された方で、かなり東洋医学会の中では専門医でいらっしゃいますし。

**塩竈** こういった先端医療っていいですか、こういったものを残している病院というイメージで考えると、あの東洋医学っていうところを取り組んでいる病院ってというのは、すごく珍しいなあと感じて思ってしまうんですが。

**吉田** 県内では、県立病院では、漢方外来とうたっているところはなくて、千厩病院が今回初めてですね。

**塩竈** この東洋医学っていうところを合わせていくと、すごく良い効果っていうのか、最近では出てくるんでしょうか。

**吉田** なかなか西洋医学では解決が難しいような病態っていうのもありますので、東洋医学の方から光を当てると解決策が出てくるっていうようなこともありますので、そういったことを考えていました。

**塩竈** 長年、何かいろいろそういった治療に通っていらっしゃる皆さんの解決策が見えてくる可能性もありそうというのもそうですけれども、各それぞれの病院内の診療科からの紹介と

か、こういったものもあるんでしょうか。

**吉田** 各診療科でもなかなか解決できないまま抱えている病態問題っていうものもありますので、その辺も院内の診療科の先生に呼びかけて、この外来の日に合わせて紹介していただくと思ってました。

**塩竈** 今日もお話を伺ってきましたけれども、地域の中でいろいろその役割分担っていうのも病院の中にもあって、それぞれの専門分野っていいですか、得意分野っていいですかね、こういったところってというのが活かされていく、こういったものっていうのを効率的に組み合わせていくことで、地域の医療というのが、より効率的に良いものになっていくっていうのがすごく今日のお話で伝わってまいりました。新たに漢方外来というのが8月19日火曜日から開設されます。毎月第3火曜日の午前中に診療があるということです。

**塩竈** 今日、この県立千厩病院で取り組んでいます、まずは救急医療の実態と回復リハビリ病棟について、さらに小児科外来についてと、新たに開かれる漢方外来についてお話を伺ってきました。今日はスタジオに岩手県立千厩病院の吉田徹医院長にお越しいただきましてお話を伺いました。吉田院長、今日はどうもありがとうございました。

**吉田** どうもありがとうございました。